



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



諦めず夢を叶える！

ベネディクト朴 鎮亮さん司祭に叙階

韓国人助祭ベネディクト朴鎮亮(パク・ジンヤン)さんが九月六日(日)、鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂で司祭の聖位に上げられた。韓国から迎え入れた神学生が鹿兒島教区司祭となったのは、アントニオ鄭法鐘(チョン・ポフチョン)神父、ドミニコ宋診旭(ソン・ジンウク)神父に次いで三人目。この日の叙階式には、朴さんの故郷から母親・李昌さんを始め六十人の信者が駆けつけ、教区の信者と喜びを共にした。

昨年四月に鹿兒島教区の神学生として受け入れられた朴さんは、韓国は忠清南道生まれの四十四歳。六人兄弟の末っ子として生まれ、忠南高等学校卒業後、安養大学に進学した。受洗したのは一九九二年、二十二歳になってから。その後、聖職者を目指しソウルカトリック大学に進み神学科を卒業するが、韓国教会の事情や修道会等の諸事情からその道は閉ざされてしまっていた。

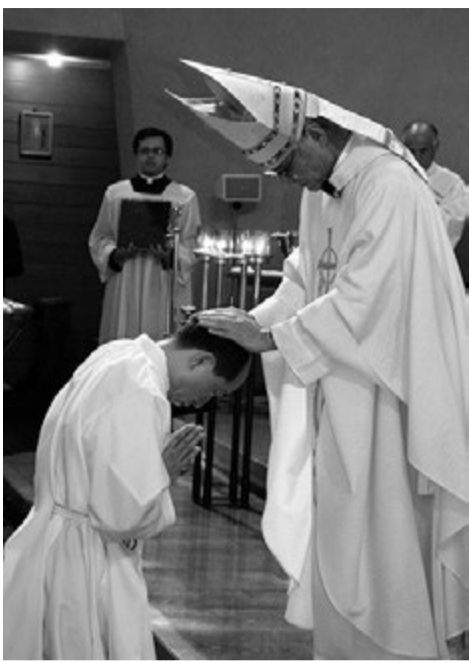
区が受け入れた韓国人神学生はこれまでに五人。いずれも朴さんと同様に故国では聖職者への道が閉ざされ、わずかな望みを持ってインターネットを利用して、自分たちの司祭職への思いを訴え、鹿兒島教区の門を叩いた人たち。その中でも朴さんの場合は試練が続く。数人いた韓国人神学生のすべてを鹿兒島が受け入れる力はなく、他の教区に送ったからだ。朴さんはその中の一人。しかし、彼はそこでも夢が消えかけ、昨

年、韓国人神学生受け入れのきっかけとなった鹿兒島の門を再び叩き、その熱意に教区が受け入れを決めたのだ。まさに紆余曲折

を乗り越えた彼の叙階式となった。そんな朴さんの司祭叙階式には、三百人の信者が駆けつけた。福音朗読後の叙階の儀では、永山幸弘神父が朴助祭を司祭にふさわしい者として司祭に推薦、司教がこれを受け入れる旨を宣言すると聖堂内から大きな拍手が起こった。

その後は、司教が司祭職についての訓話をを行い、連願後の按手で司祭の聖位に上げられた。叙階の儀の後には、司祭服に着替えた朴新司祭も司教

光」について解説。その後、グループに分かれて分かち合いがなされ、ミサで締めくくられた。講師を務めた頭島神父は、福音宣教のキーワードに「出向くこと」「祈ること」「共にいること」を掲げ、神父自身の身近な人間関係などを例にあげ、それ



郡山司教の按手を受ける

出向いていこう福音化に 教区フェスタで頭島神父が講話

九月十三日(日)ザビエル教会で教区フェスタが開催された。教区フェスタは、教区評議会と交互に一年おきに開催されている「教区の日」の行事。今年度は、教皇フランシスコの使徒的勧告「福音の喜び」に基づいて学ぶ機会とされた。

午後一時から始められた今年の教区フェスタでは、レデンプロール会の頭島神父(谷山教会主任)がキリスト教を伝えるための新しい福音宣教について書かれた「福音の



ら一つひとつの大切さを具体的に示した。「よい種(福音の種)はすべての人の中にある。問題はそれをどのように福音化していくかだ。そのよいものをどうキリスト教的なものにしていくかだ」とす

分ち合い後は、アジア会議で出張中の郡山司教に代わって司教総代理の小川靖忠神父司式のミサがさげられた。ミサでは、この日の福音「放蕩息子の譬え」を題材にしたザビエル教会学校の

10月18日は 世界宣教の日

世界にはまだキリストを知らない人がたくさんいます。日本でもわたしたちはキリストを知らない人たちに囲まれて生きています。キリストを伝えることである宣教は、神の子ども、キリストの弟子となつたわたしたち皆に与えられている使命です。「世界宣教の日」は、すべての人に宣教の心を呼び起こさせること、世界の福音化のために、霊的援助をはじめ宣教者たちの交流を各国の教会間で推進することを目的としています。この日の献金は、各国からローマの教皇庁に集められ、世界中の宣教地に援助金として送られます。日本の教会は、いまだに海外から多くの援助を受けていますが、経済的に恵まれない国々の宣教活動をさらに支援できるように成長していきたいものです。

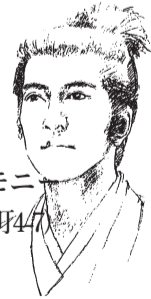
福者レオ税所七右衛門 殉教祭

2015年11月15日(日)

主催 鹿兒島司教区

プログラム

- 12:20 京泊天主堂駐車場集合 (薩摩川内市港町6232)
- 12:30 巡礼行列
- 13:00 祈りと聖歌 (京泊天主堂跡)
- 14:30 川内教会でセレモニー (薩摩川内市若松町47)
- 15:00 殉教記念ミサ



教区人事

▼朴鎮亮神父

九月六日に叙階されたベネディクト朴鎮亮神父は、ザビエル教会助任司祭。

この日の出席者は七十人あまりと少なかつたが、この中から一人でも多くの方が福音化のためのきっかけ作りができるよう祈りがさげられ、教区フェスタは終わった。

日本カトリック障害者 連絡協議会に参加して

谷山教会 小滝 晋

二〇一五年八月二十二日から二十三日、三年ごとに開催されるカトリック第十二回全国大会が札幌で開催されました。私は今まで、このような大会があるとは知りませんでした。ふだんの生活の中で、自分以外の障害を持つ人たちに会うことはなかなかありませんでした。「大会に参加しよう」と決めたのも、自分に必要なのは何かと考えるとき、「知らなかった」とで参加するチャンスが神様から与えてもらえた」と思ったからです。

内訳は障害者三人、付き添い家族一人、頭島神父様、紫原教会の徳永さんです。

大会のテーマは「主の食卓に招かれたものは幸いです。招かれていく喜び」です。今大会は、北海道で初めて開かれる大会というだけでなく、障害者権利条約が日本で行われてから初めての大会であり、来年四月から障害者差別解消法が施行される直前の大会です。この法律によつて、障害者が社会の中でより住みやすくなつていけばいいと思ひます。そして各テーマに沿つて分科会が行われました。

皆さんがいろいろ体験を話していく中で共通しているのは「コミュニケーションをどうすればいいのか難しい」とのことでした。一人ひとりの障害の特性によつて伝わりやすい場合があり、例えれば、何か頼まれたことを一人で全部やろうと張り切り過ぎてしまひ、寝込んでしまひたつたという人がいました。自分なら「これくらいならできるだろう」と勝手に判断するとあぶないことがあります。そういったときに周りの対話や分かち合い、

活動はできないからこそ、少しでもいいから自分ができることを手がけていくことが大切だと思います。また今まで不安でしたが、初めて大会に参加したことで「自分はひとりではないんだ。一緒に歩んでいく仲間がいる」という信頼と喜びを持てたという人も

「あの時代は辛いことばかり。思い出したくないから普段、語らないようにしている」
ご婦人は悲しげな顔をしました。
戦後七十年。たしかに日本は焦土から復興を遂げた。いまや自他ともに認められる経済大国として、先進国の一つに数えられもする。しかしその繁栄の陰で確実に、歪められたものがある。人口の過疎。減反政策の一方、生産額ベースで食料自給率は七割以下、カローリーベースでは四割に満たない。あるいは震災復興の現場で見た8メートルに及ぶ防潮堤、平地に堆く積まれた嵩上げ用土砂の山々。そして原発再稼働は臆面もなく主張される。挙句に、安保関連法案は衆院で強行採決された。

東北で あるいは戦後七十年に 鹿児島教区神学生

美（うる） わしい人に出会った。

司牧実習先である浅草教会（東京教区）の若者たちと東北を訪れたときのことだ。いまやもう絶たれたに等しいと思われる、日本人の徳そのもののような人。すべてに慈しみ深く、あるがままを受け容れ、寡黙に生きる。今年八十六歳という農家のご婦人だった。

その人は旧い農家の暮らしをいまに伝える日本家屋に独りで住まう。田を目前に控えた櫓門のような離れをくぐると、右に井戸、左にはかつて牛馬のいたであろう小屋が母屋に隣接。現在（いま）は自家用車が収まる。

母屋は一階だけでも七部屋はある。奥座敷へ続く広間の鴨居の上の全面硝子戸を備えた神棚が。これほど大きく立派なもの初めて見た。奥座敷は天井がひととき高い。見上げる目に崩れ剥がれた内壁も映る。四年前の震災の傷痕は

いまも生々しい。
あの日、内陸に位置するここでも震度七を観測、停

い。すべてが漫画。僕たちの周囲（ぐるり）のすべてが具体的な、肉感のともなう、人間的な生活のリアリティーを欠いている。
だが、ご婦人のような、美わしい人は、僅かではあれ、いまもこの国のここかしこにいるにちがいない。愚痴をこぼすでなく、恨み言をもらすでなく、黙々と日々の営みに専心。穏やかに、ひたむきに自らの生を生きていく。漫画でない、真実の生活のリアリティーに暮らす。このような人たちがこそが、沈黙のうちに、平和を語っている。平和を体現している。

美（うる） わしい人に出会った。司牧実習先である浅草教会（東京教区）の若者たちと東北を訪れたときのことだ。いまやもう絶たれたに等しいと思われる、日本人の徳そのもののような人。すべてに慈しみ深く、あるがままを受け容れ、寡黙に生きる。今年八十六歳という農家のご婦人だった。

その人は旧い農家の暮らしをいまに伝える日本家屋に独りで住まう。田を目前に控えた櫓門のような離れをくぐると、右に井戸、左にはかつて牛馬のいたであろう小屋が母屋に隣接。現在（いま）は自家用車が収まる。

母屋は一階だけでも七部屋はある。奥座敷へ続く広間の鴨居の上の全面硝子戸を備えた神棚が。これほど大きく立派なもの初めて見た。奥座敷は天井がひととき高い。見上げる目に崩れ剥がれた内壁も映る。四年前の震災の傷痕は

いまも生々しい。
あの日、内陸に位置するここでも震度七を観測、停

い。すべてが漫画。僕たちの周囲（ぐるり）のすべてが具体的な、肉感のともなう、人間的な生活のリアリティーを欠いている。
だが、ご婦人のような、美わしい人は、僅かではあれ、いまもこの国のここかしこにいるにちがいない。愚痴をこぼすでなく、恨み言をもらすでなく、黙々と日々の営みに専心。穏やかに、ひたむきに自らの生を生きていく。漫画でない、真実の生活のリアリティーに暮らす。このような人たちがこそが、沈黙のうちに、平和を語っている。平和を体現している。



鹿児島教区からの参加者たち

鹿児島教区からの参加者たち

教区フェスタで子どもたちが劇を披露 大人の人も頑張ってる！



頭島神父の教区フェスタでの熱い熱い講話と説教「勇気を出して出向いていこう」。9月13日、ザビエル教会学校の子どもの劇の披露はまさにそんなお手本となってくれた。

若者たちの研修と交流の機会 九州青年キャンプ2015

九州青年キャンプ二〇一五年が八月二十二日（土）から二十三日まで大分市の鶴崎教会であった。長崎、福岡、大分、鹿児島の四教区のほか、東京や大阪など九州以外の教区からも青年が参加。互いの思いを分かち合い、交わりを深めた。

毎年、九州四教区持ち回りで開催される九州青年キャンプ。今年は大分教区が担当、テーマを「しらしんけんく見つけようえん新しい世界」とし、鶴崎教会を主会場に行った。初日はオリエンテーションの後、参加者は五班に分



こと、したいこと」など、三つの問いについて分かち合った。その後、各班でグループ活動。それぞれテーマに沿って写真撮影、その作品の出来を競った。夕の祈りはロザリオを一環。夕食はバーベキュー。交流会では参加者持参の各地の名産品が並んだ。第二日、ミサは大分教会で。浜口末男司教が司式。司教は説教の際、説教壇ではなく信者席に下り、青年たちの面前で語った。「イエスさまは十字架で、自らが何者であるかを表した」と浜口司教。「若い皆さんはこれから自らを世に示すことになる。その時、決断を求められるが、祈りを通してイエスさまに従い、決断してほしい」と話した。今年四十四人が参加。来年は福岡で行われる。

（二〇一五年、夏）

なります！神様の花嫁に

聖血礼拝修道会聖ヨゼフ修道院で終生誓願式

聖血礼拝修道会は八月十八日(火)、霧島市溝辺町の同修道会聖ヨゼフ修道院で終生誓願式を行った。誓願宣立者はベトナムから来日して八年のシスター三人。鹿兒島教区の郡山健次郎司教が司式、コントウン教区(ベトナム)のミカエル・ホアン・ドック・オアン司教が立ち会い、三人は涙を浮かべながら誓願を宣

立した。終生誓願を宣立したのは二〇〇七年に来日したシスター、ステラ・マリア・グエン・ティ・ビッチ・トゥイさん、マリア・テレジア・グエン・ティ・レ・ハさん、マリア・アロイジオ・グエン・ティ・リン・ビンさんの三人。いずれも志願者として其に来日、志願期一年、修練期二年、有期誓願二年、さらに同三年を経て、このたび晴れて終生誓願となった。



厳かに行われた誓願式

郡山司教が司式。説教では司教が「わたしたちはお祈りするため、日本に来ました」ととても元気がよかったです」と初対面の思い出を披露。この日の朗読箇所から「あなたは生まれ故郷／父の家を離れて／わたしが示す地に行きなさい」と「あなたがあたがと」(創十二・1)とわたしを選んだのではない。わたしがあなたがあたがとを選んだ(ヨハ十五・16)を引き、「皆さん(三人)に鹿兒島が示され、この地で選ばれたことがとても嬉しい。皆さんの祈りが鹿兒島だけでなく、日本を支えている」と喜びと感謝を述べた。また、「終生誓願とは、これで終わりということではない。これから始まる。これからも鹿兒島や日本のため、皆と一緒に歩んでほしい」と励ました。誓願式では、三人が祭壇前に着席した郡山司教とミカエル・ホアン司教の前にひざまずき、全生涯をキリストに従うこと、神と隣人への完全な愛にすべてをささげることなどを宣言。諸聖人の連禱が歌われる中、従順を示して伏臥した。自筆誓願文による誓願では、シスター・ステラ・マリアが「あなた(神さま)のお召しに自分の意思をもつて喜んでおこたえいたします」と涙声で。シスター・マリア・テレジアも

「終生、貞潔・清貧・従順の誓願を宣立いたします」と声を震わせた。また、花冠と指輪の祝別があった。この日、郡山司教、ミカエル・ホアン司教のほか、鹿兒島教区司祭や修道会司祭など十二人が祝福に駆け付けた。また信者席は、教

鴨池教会で敬老会

鴨池教会では、九月十三日に七十五歳以上、七十八人の方々に敬老のお祝いをいたしました。

当日のごミサには三十二人の方が出席され、泉神父がお祝いのお茶を差し上げました。ミサ後には、お祝いの会として一階のロビーで婦人



宣教奉仕者四十二人を選任

宣教の切り札として奄美地区

七月二十六日(日)名瀬聖心教会では選任式があり、奄美大島にある七つの小教区から四十二人の宣教奉仕者が誕生した。

かつて奄美大島は集団洗礼があるなど、受洗者が後を絶たない地だった。しかしこの地でも時の流れには抗えず、社会に対する教会

の力が弱くなってきた。こんな現状を憂慮した奄美大島地区司祭団は、司祭を助け、宣教のために率先して活躍する「宣教奉仕者」を選任することを決め、永山幸弘地区長(聖心教会主任)を中心に候補者の選定とその養成に乗り出した。この日の選任式となった。

ミサの中であった選任式では、候補者たちは一人ずつ郡山司教から聖書を手渡され、福音を大切に、周囲の福音化に邁進することを誓った。この日、宣教奉仕者に選任されたのは以下の通り。(敬称略)

山口京子(笠利)、松田忠照、恵輝久、栄ハル、別府律子、大司昭子、山田ヤエ子、碩丈代、岩原多恵子、星村文乃(以上、瀬留)、赤塚嘉寛、井原桂子、蘇畑ツギ子、宮上サダエ、宮口

+KABAYAN SEKSIYON+
Pagpapalalim sa Teolohia ng Laiko

Mula't sapul ang Simbahan ay umaasa sa kanyang laiko. Sa simpleng salita, kung wala sila, wala rin ang Simbahan. Naiulat na nang minsang tanungin si Cardinal Newman kung sino ang laiko, sinabi niyang magmumukhang katawa-tawa ang Simbahan kung wala sila!

Sa mga nakalipas na taon, lalo na sa liwanag ng Vaticano II, lumago ang sapat na pag-unawa sa teolohiya ng laiko. Isang "modernong laiko" ang umuusbong; mga laikong may kakayahang at mga edukado, nakapagpapahayag ng kanilang sarili, at ganap na nakatalaga sa Simbahan.

Itinutok ni Papa Pio XI (1922-1939) ang papel ng laiko sa organisasyon na tinawag na **Catholic Action**, tinukoy ang "apostalado ng laiko" sa "pakikisangkot sa apostalado ng herarkiya". Sa perspektibong ito, ang laiko ay tiningnan sa papel na pumapangalawa, ang batayan ng kanilang apostalado bilang isang uri ng kapangyarihan na "pagkahirang" o "pampangalawa".

Sa kabilang banda, binigyan din ng Vaticano II na lahat ng mga Kristiyano ay tumatanggap ng "atas ng pagiging apostol" sa pamamagitan ng kanilang binyag. Lahat ng mga binyagan ay sadyang pantay at tinatawag sa pagmimisyong bilang mga tagasunod ni Kristo.

Ang mga laiko na tulad ninyo ay may malaking ginagampanan na papel sa loob ng Simbahan. Kaya huwag nating sayanging at balewalain ang biyayang ipinagkaloob sa bawat isa sainyo, bilang mga tagasunod ni Kristo at ipalaganap ang kanyang pag-ibig sa buong mundo.

▼夏期講座
教区が信仰の基礎を堅固なものにしようとして毎年夏に実施している夏期講座が今年も八月十七日から二十二日までザビエル教会で開かれた。今年のテーマは昨年に引き続き「カトリックの信仰」、主に「秘跡」と「開かれた未来」について、講師の竹山昭神父から解説を受けた。

今年の講座には、昼の部、夜の部合わせて百五十五人が出席した。

区内の他の修道会のシスターや信者で満席。式後のパーティーでは、誓願宣立者三人が「神さまの花嫁になりました」と挨拶。シスターたちのダンスや歌なども披露され、賑わった。

会と催し (10月)

4日(日)	年間第二十七主日
5日(月)	フランシスコ祭
6日(火)	司祭評議会・教区本部・14時
7日(水)	教区司祭会・教区本部・16時
8日(木)	徳川義経追善会(一九六一年)
9日(金)	定例司祭会・教区本部・10時
10日(土)	宣教学校・ザビエル教会・13時30分
11日(日)	福岡英雄神父叙階記念(一九八九年)
12日(月)	年間第二十八主日
13日(火)	アッシュヤー神父霊名(聖マックス)
14日(水)	年間第二十九主日
15日(木)	世界宣教の日
16日(金)	教区巡礼委員会・教区本部・19時
17日(土)	シドゥッチ神父命日祭
18日(日)	大水如安神父命日(一九九四年)
19日(月)	年間第三十主日
20日(火)	パッションの会・鴨池教会・15時
21日(水)	オリブの会・教区本部・14時
22日(木)	東研神父叙階記念(一九六四年)
23日(金)	大松正弘神父霊名(聖ジェラルド)
24日(土)	聖シモン・聖ユダ使徒
25日(日)	ミタマヤ神父命日(一九八四年)

祈りの意向

【ノベナ】奉獻生活者のため(5日、14日)

【祈祷の使徒会】世界共通・人身売買

宣 教 ・アジアにおける宣教

日本の教会 ・諸宗教対話

「高森草庵Ⅱたかもりそうあん」。ドミニコ修道会司祭・故押田成人Ⅱと神父が、日本人の心に適う修道生活を求め、八ヶ岳山麓に開いた。標高千。冬は零下15度を超え、雪と氷に閉ざされる。厳しい自然環境の中で自給自足、「祈り」と「労働」に専心する修道の地である。そこで一週間余りを過ごす機会を得た(2月22日～3月2日)。押田神父亡き後も、いまなお神父の霊性に魅せられ草庵の理念を受け継ぎ、集う人々。そこには自然と一体の信仰に裏打ちされた人間らしい生活と真実の沈黙が日々を紡いでいた。その日々について、思い巡らした日記の三回目。

2月25日(水)

ミサの説教で、渡辺神父が昨晩の問題提起について触れた。「創世記1章28節は、人間を地上の支配者と定めたのではない。万物の司祭の役目を授けたと解釈される」と。

朝食のとき、回答に礼を述べる。しかし、たとえ司祭の役目であれ、人間とその他の万物との関係に等しく生命ⅡいのちⅡと捉える認識の欠如は、ユダヤ・キリスト教も含め、西洋の伝統に明らかな問題と見るとの考えを伝える。すると、神父は言った。「それを補うカトリシズムを、あなたが完成することを期待します」。

2月26日(木)

渡辺神父は本格的な禅修行を積んできたからか、沈黙の間、結跏趺坐のまま微動だにしない。1時間の沈黙も、「ちよつと長くなつて申し訳ない」と泰然自若。祈りの深さに瞠目する。

草庵の沈黙は深い、と書けば嘘になる。深いどころではない。完全だ。そしてほんものの沈黙がいかにも雄弁であるか。暁闇の明、木々のそよぎ、星々の瞬き。昼夜を問わず、聖務・作務

の別なく、私たちの「つながり」にして「ひろがり」たるあまねくが呼びかけている。祈りとは聞くこと、耳を澄ますこと。ここでの

高森草庵滞在日記(3) 雪と氷に閉ざされた修道の地で「祈り」と「労働」に専心する暮らし

ら真実、具体的に身をもって知ることが出来る。

午後は雪まじりの雨。作業中止。神父と3名余り離れた塩沢温泉(山梨県北杜市)へ。草庵では、入浴は週1回。だから夏は毎日、盥ⅡたらⅡに水を張って日向水ⅡひなたみずⅡとし、作業後の汗ばんだ体を拭うという。今週は土曜日と聞いた。待ちきれず、ねだつたのである。

2月27日(金)

終日、一人で薪作り。

斧を振るって薪を割る。この作業は、杵ⅡきねⅡで餅を搗ⅡつⅡいたり鉄を振るって土を耕すのとはやや違う。杵も鉄も腰さえ決まれば



高森草庵の聖堂

ば、振り上げたまま自然に先端の重みに任せ対象へと落下、目的を果たすことができる。薪を割る場合、振り上げ・落下までは同様だが、打突の瞬間、腰がぐつと入っていないと的確に命中せず目的を果たせない。この感覚を掴めば、非力であっても、面白いように割ることができる。もちろん個人的な感覚であるから、保証の限りでないけれど。

昼食前に千葉からMさん着。田植えがしたくて草庵を訪れて以来、草庵に魅せられ週末を過ごしに来ると隣に在住の信者二人、深夜に最終列車で着いたというTさんと。

2月28日(土)

午前8時、お御堂にて「アッシジの聖フランシスコの平和の祈り」を唱え、平和祈願の巡礼に。川隅シスターとMさんのほか、近

に数えられる神社を中心に10か所を巡る。約15kmの行程。憲法改正が現実味を増した数年前、危機感を募らせた草庵常連を中心に始まった。現在、月1回実施。コースは毎回異なる。

この日、八ツ手御行堂(諏訪郡原村)、長円寺、社宮寺ⅡしゃごじⅡ(いずれも茅野市)などを巡礼。鈴を付け「南無伽羅沙御母ⅡなむがらさおとめⅡ」と記した杖を携え、同じく「南無

も唱えるという)。歩行時は沈黙が基本である。真つ白な雪の残る田畑が広がる丘陵を、八ヶ岳、穂高岳、甲斐駒ヶ岳、富士山と360度に見晴るかす歩む警沢。風のない晴天、穏やかな陽光が注ぐ最高のコンディションに恵まれた。

伽羅沙御母」そして「平和祈願」と墨書した白い半袈裟を肩に歩く。各霊場では天使祝詞を唱和(メンバール)によって併せて般若心経

鈴木神父のやさしい言葉 心を変えろということ

「ぶどう園へ行って働きなさい」という父親の命令を初めは拒み、後で考え直して言う通りにした長男と、初めこそは受け入れたものの、後になって自分の言ったことにも父親の命令にも従わなかった弟のこと

が描かれた「二人の息子」のたとえは理解が難しいと言われています(マタイ21・28～32)。常識的に考えれば、経緯はともかくとして最終的に父親の命令に従った兄の方が「よし」とされるべきでしょう。しか

文芸

短歌

純心聖母会 稀井道子
台風に巨木倒れしその間
コスモス息吹きて秋風を待つ
ふと思ふ真夏の空の白雲に
ひときもりのや卑弥呼見しもの

俳句

吉野教会 徳永ノブ子
秋時雨主にまもられて今日
も生き
谷山教会 東 健一郎
爽やかに司祭の高著読み終
へて
鹿兒島純心 川上 和
イザヤ書を豊かに食べる叙
階式
墓碑の名も記憶もかすむ七十年
見上げれば鐘楼高く秋の風
コスモスや我を残して姉は
逝く
出水教会 遠竹睦郎
彼岸花真紅に咲きて美しき

正義と平和協議会

「学習会・分かち合い」案内
日時10月17日(土) 14時/場所ザビエル教会1階要理室/テーマ「正義と平和」全国集会2015東京大会報告 ①東アジアにおけるカトリック教会の脱原発の連帯 ②現代世界憲章50周年記念シンポジウム ③その他
定例「学習会と分かち合い」 毎月第三土曜日14時
連絡先・鹿兒島正義と平和協議会
山下和実 TEL080(1704) 8315

「ぶどう園へ行行って働きなさい」という父親の命令を初めは拒み、後で考え直して言う通りにした長男と、初めこそは受け入れたものの、後になって自分の言ったことにも父親の命令にも従わなかった弟のこと

